

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24792556

研究課題名(和文) 新任保健師の職業アイデンティティ確立に向けたeラーニング教育システムの開発

研究課題名(英文) Development of e-learning education system aimed at professional identity establishment of novice public health nurses

研究代表者

金藤 亜希子(Kanefuji, Akiko)

広島大学・医歯薬保健学研究院(保)・助教

研究者番号：80432722

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：行政機関に勤務する保健師の職業的アイデンティティ確立を促進するeラーニング教育システムを作成することを目的とした。文献レビューの結果、保健師の職業的アイデンティティの内容を明らかにするため、保健師経験年数5年未満の新任保健師へ面接調査を行った。その結果を基に保健師全体へ質問紙調査を行い、職業的アイデンティティの内容や経験年数による違いを明らかにした。その上で、特に教育が求められている新任保健師に対してeラーニング教育システムを作成し、現在改善に向けて修正を重ねている。

研究成果の概要(英文)：This study aims to create an e-learning system for professional identity establish of novice public health nurses.

In order to clarify the contents of professional identity, were interviewed to novice public health nurses. Then, questionnaire to whole public health nurses. As a result, there is a difference due to the contents and the years of experience of professional identity. Education for Novice public health nurses is necessary. So we create the e-learning education system and improvement of it.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：行政保健師 新任期 職業的アイデンティティ ICT 現任教育

1. 研究開始当初の背景

近年の保健師活動は、健康問題や住民ニーズの複雑・多様化に加え、特定保健指導等新制度への対応を余儀なくされている。このように、行政保健師への要望と期待はますます高まっているが、これらのニーズに対応可能な質の確保が課題となっている。専門職とは、自己の職業に対する職業アイデンティティを確立し、継続的な自己研鑽が必要な職業であるが、昨今の新任保健師は、日々の業務に追われ、自己研鑽の機会や時間の確保が困難な状況から、職業そのものへの魅力や意欲を失っていることが懸念された。さらに、新任保健師への現任教育が努力義務化されているものの、その実施方法については組織体制等の課題により従来の集合型研修が困難な状況が伺える。そこで、現任教育の効果的な方法について検討の必要性がある。

2. 研究の目的

本研究では、新任保健師の職業アイデンティティに影響を及ぼす要因を明らかにするとともに、職業アイデンティティ確立を促すeラーニング教育支援システムを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

<平成24年度～平成25年度>

- 1) 職業アイデンティティに影響を与える要因の明確化：「保健師」、「職業的アイデンティティ」、「現任教育」、「保健師教育」について国内外、看護学およびその他の領域の文献レビューを行う。

<平成25年度>

- 2) 新任保健師の職業的アイデンティティへの認識と職場環境へのニーズ調査：新任期の保健師を対象とし、保健師像イメージの変化等に関する半構成面接調査を実施する。
- 3) 仕事への意欲に影響を与えている要因、職業アイデンティティの構成要素の明確化のためのアンケート調査：全期の保健師を対象に、アンケート調査を実施する。アンケートの内容は、面接調査の結果を踏まえ、退職保健師及び中堅期の保健師と検討し、保健師の職業的アイデンティティの構成要素案、保健師が成長するのに望ましい職場環境要因と現在の職場環境、eラーニングへの参加意向とする。
- 4) eラーニング教育システムの試行：前年

度までの研究結果を踏まえ、eラーニング教育システムを作成し、試行する。対象者にはメールで参加を募り、参加者の基本属性は研究者に分からないよう、システム管理会社を介して運営する。eラーニングシステムの内容は、教育システム受講前に受講の目標の明確化を行う。次に新任保健師が出会いやすい事例を提示し、保健師としてのアセスメントと対応について参加者同士がWeb上でディスカッションを行う。ディスカッションを行うためには、自身のコメントを入力する必要がある等、教育システムを進めるに当たっていくつか課題を設定する。全ての課題を終えた参加者に対して、ベテラン保健師のコーチよりフィードバックを受け、最終的に参加者の目指す保健師像を各々記載し、目標の明確化を促す。eラーニング教育システムの評価は、参加者のシステムの使用状況、満足度、コメント内容、平成25年度のアンケート調査結果から作成した職業的アイデンティティ測定指標の受講前後比較により行う。

4. 研究成果

1) 新任保健師の職業的アイデンティティの構成要素について

保健師経験2年目の保健師7名に対し、2回の面接調査を行った。1回目は個別面接調査を行い、その結果に追加する目的でフォーカス・グループインタビュー(以下、FGIとする)を実施した。その結果、279のコードから17のサブカテゴリーを抽出した(表1)。

表1 職業的アイデンティティのサブカテゴリー

1	仕事に余裕が持てない
2	保健師の技術に自信が持てない
3	保健師らしさを意識する
4	保健師の役割と責任を常に意識する
5	他者からの承認により喜びを得る
6	住民の反応から職業へのやりがいを得る
7	仕事を通して人間的に成長している
8	仕事を通して保健師として成長している
9	保健師の仕事は私の生き方に影響を与えている
10	後輩の役に立ちたい
11	職業に誇りを持つ
12	保健師には優れた能力がある

13	他職種に保健師の仕事を理解してほしい
14	保健師の仕事は面白い
15	理想の保健師モデルがある
16	保健師として成長するための明確な目標を持つ
17	自発的に保健師としての成長に努める

この結果より、先行研究より得られた看護師の職業的アイデンティティ尺度の下位尺度の内容がほぼ抽出されていたことから、新任期の保健師でも全ての経験年数に共通する職業的アイデンティティを形成する過程にある可能性が示唆された。また、職業的アイデンティティの形成過程にある新任期は、中堅期以降の保健師より、身近に保健師の管理職がいることや先輩保健師の具体的な助言を必要としていることが明らかとなった。これは、体験の少ない新任期の保健師活動に対する自信のなさの表れであると言える。個別面接調査と FGI の実施には 6 ヶ月の期間を設定したが、その結果 FGI から得られたデータがより具体的であった。この変化は、新任保健師が住民から頼りにされたり、直接感謝される体験を蓄積し、担当地域への愛着を持てたことや、職務体験の意味や自分の役割について先輩や周囲の助言を受けながら振り返ることで、自分なりに体験の意味づけを行えたこと、保健師として成長したいという意欲が影響していると推察される。

## 2) アンケート調査の結果について

面接調査の結果をもとに、職業的アイデンティティの測定指標を作成した。職業的アイデンティティは、職業を通して日々発達するものであるため、アイテムプールの作成においては、研究 1 の結果得られた 17 のサブカテゴリーから、保健師の職業的アイデンティティ測定指標の項目案 21 項目を作成した。項目案は、現場の保健師が理解しやすい様具体的な言い回しとするために、サブカテゴリーおよびコードの言葉を出来る限り活用し、必要に応じて既存の尺度も参照しながら表現の修正を繰り返した。表現の適切さと文章のわかりやすさについて、質的研究の専門家 1 名と、修士号を持つ現役の行政保健師 3 名に加えて退職保健師 2 名に確認しながら作成した。その結果、研究 1 で得た 17 項目に 4 項目を追加した。

アンケートの結果を SPSS で分析した結果、3 因子 12 項目が得られた(表 2)。項目の内容から、3 因子はそれぞれ【保健師としての

自己信頼】、【明確な目標に向かった実践】、【職業への適応】を表現していると考えた。3 因子は全て経験年数が上がるほど高い値を示していた。さらに、職場内の保健師数が多いほど明確な目標に向かった実践を行っており、職業への適応も高い事が示された。また、役職を持つ保健師ほど職業への適応が進んでいた。さらに、今の職場に満足している者ほど職業的アイデンティティが高かった。アンケート調査の結果から、職業的アイデンティティを高める要因の推察に至った。

## 3) e ラーニング教育システムの試行結果について

受講期間を 1 ヶ月とし、ポートフォリオと事例検討を行う e ラーニング教育システムを作成し、試行した。その結果、受講者は全員業務時間外にパソコンから受講していた。受講の評価について、他の受講者の回答を閲覧しコメントを入力できる点、最後のベテラン保健師からのフィードバックについて好評価が得られた。しかし、コメントが入力された際に通知が無いため、ディスカッションにタイムラグがあることや、機種によってはログインできない等システム上の課題や、事例が担当業務外の事例である場合参加しにくいという内容に関する課題が明らかとなった。また、職業的アイデンティティへの影響については、受講者数が少なかったため分析には至っていない。これらの課題に対して修正を行い、受講者を増やすことで次の研究に繋げていく必要がある。

## 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 5 件)

1. 金藤亜希子, 中谷久恵, 行政保健師が認識する成長に必要な職場環境の構造, 大 35 回日本看護科学学会学術集会, 2015.12.6, 広島国際会議場(広島・広島)
2. 金藤亜希子, 中谷久恵, 小川智子, 山下清香, 行政機関で働く新任保健師の成長を支える職場環境, 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 2015.11.5, 長崎ブリックホール(長崎・長崎)
3. 金藤亜希子, 中谷久恵, 行政分野で働く保健師の職場環境に対する認識, 第 18 回日本地域看護学会学術集会, 2015.8.2, パシフィコ横浜(神奈川・横浜)
4. Kanefuji Akiko, Nakatani Hisae, The

Professional Identity Formation in  
Novice Public Health Nurses , 35<sup>th</sup>  
International Association for Human  
Caring Conference , 25 May 2014 , Kyoto  
Japan

5. 金藤亜希子 , 中谷久恵 , 新任期における  
行政保健師の職務体験からの学び , 第 10  
回広島保健学学会学術集会 , 県立広島大  
学 ( 広島・三原 )

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

金藤 亜希子 ( KANEFUJI AKIKO )

広島大学大学院医歯薬保健学研究院・助教

研究者番号 : 80432722